

若手育成へ青年部組織

勇者の挑戦

ぎふ財界人列伝
バローホールディングス編

「会議所に青年部を立ち上げて活性化し、企業が上場できる雰囲気づくりに努めたい」。2016年10月、多治見商工会議所の第8代会頭に就任した田代正美は、議員総会後の会見でこう切り出した。「地元の若手の中から上場企業の経営者が出てほしい」。思いを描いてきた田代は、バローホールディングスの会長兼社長として多忙な日々を送る中、財界活動でも手腕を発揮する。

自身の仕事を通じて地域社会に貢献する気概がある経営者の自己研さんの場を作り、価値観や問題意識を共有できる経営者ネットワークを拡大することを目的に掲げ、すぐに組織化に着手。



多治見商工会議所青年部の会頭に語り掛ける会頭の田代正美氏。7月14日、多治見市新町、市産業文化センター

◆◆10 多治見商議所会頭でも手腕



田代正美会頭が式辞を述べた多治見商工会議所創立70周年記念式典＝多治見市東町、セラミックパークMINO



手をつないで団結する豊田鐵郎会長（右から4人目）と各商工会議所会頭ら＝恵那市長島町中野、恵那文化センター

翌年9月、青年部を立ち上げた。通称は多治見市の花から桔梗塾とした。50歳未満の若手経営者20人が集い、毎月のように勉強会、講演会、交流会を開き、田代も自ら講師を務めた。参加者からは「中身が濃い」と評判になった。

きっかけになる。今はチャンス。きちっとした戦略の上でビジネスモデルを進化させよう」と熱弁を振るった。会員数は発足当初から倍増し、40人となっていた。

田代のリーダーシップや求心力は、多治見だけにとどまらない。任期1年目の16年、多治見商工会議所は創立70周年を迎え、多治見市内で記念式典を開いた。中津川市に岐阜県駅が設けられ、10年後にもリニア中央新幹線が開業予定という好機を捉え、田代は「東濃地区にとどまらず、広域連携を強め

たい」と呼び掛けた。

「東美濃」をキーワードに広域連携と観光を切り口に新たな事業に着手する。17年7月、東濃5市と可児市の東美濃6市の商工会議所と中部経済連合会が連携して、観光振興で地域経済の活性化を図る連合体「ツーリズム東美濃協議会」を発足した。大正期に実業家福沢桃介が木曾川で手掛けた水力発電所、酒蔵や陶磁器の窯元と、東美濃の6市を巡る歴史、文化の観光ルート作りを進める。中経連は作業部会に入り、市場分析に携わる。

「人口は多治見市単独では10万人だが、広域となれば50万人にもなり、人材もそれだけ増える」。19年、会頭に再任されると、田代は「新しい観光事業に積極的に取り組みたい」と、広域の利点を生かした事業の構築に乗り出す。本年度は6市に酒蔵があることに着目し、おいしい日本酒を生み出す酒蔵の地理的背景を探るとともに、東美濃地域で作られる酒器を絡めた広域観光事業の具体化を目指す。コロナ禍で活動を一時休止していたが、8月1日にリモートで地酒フォーラムを開き、地酒の特徴を研究した。

並行して、次の一手も進める。女性経営者を対象に女性ならではの発想を期待して、女性部会を立ち上げる。6月には田代とキーパーソンとなる女性経営者、事務局と意見を擦り合わせた。女性の視点をどう生かすか。早ければ来春にも立ち上げる意向だ。（敬称略）